

日本の国際平和協力活動と憲法改正

東京外国語大学大学院教授
篠田 英朗 しの だ ひで あき

- * 周回遅れの国際平和協力
- * 膨大な無駄を生む根源
- * 進化を遂げた国際平和協力
- * 国際法との整合性が重要
- * 日本国憲法本来の精神
- * 戦争を目的とした戦力とは
- * ドイツ国法学で歪められた解釈
- * 古い戦争観を排除した米国
- * 生まれ変わった後の体制
- * 国際法上認められる軍隊



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）

今日は東京外国語大学の篠田先生においていただきました。篠田先生は早稲田大学で修士課程を修了された後、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスでPh.D.を取られ、その後、ケンブリッジとコロンビアで研究活動をされ、日本に帰られた後は広島大学を経て現在の東京外国語大学で教鞭をとられておられます。学生時代、難民の救援活動でボランティア活動をされ、ソマリアとか、いくつかの紛争地域でのご経験もございます。カンボジアのPKOでは、政府から派遣されて投票所の関係のお仕事もされました。ですから、国際平和協力ということであれば現場をたいへんよくご存じであります。私も何回かコラムに書かせていただきましたけれども

も、現場を知らずに、そして国際平和協力の意味もわからずに、いろいろなことを言う人が多いわけで、そういう意味では今日はリアルなお話をお聞かせ願えると思います。それから最近、憲法改正についての話題のご本が出まして、先ほど伺いましたら5刷りまでいったそうですが、本当のことを書くとは右翼だと言われるので非常に厄介だとおっしゃっておられました。現在話題になっております9条の改正の問題も含めて、日本のいろいろな状況についても触れていただけると思います。それでは篠田先生よろしくお願いたします。（拍手）

周回遅れの国際平和協力

篠田 ただいまご紹介にあずかりました東京